

夢分析におけるレベルIIの介入の意義

名 島 潤 慈

Significance of the Intervention of Level II in Dream Analysis

Junji NAJIMA

(Received September 1, 1997)

In terms of the intervention to provoke dreamers' associations in dream analysis, the author is now practicing two categories of intervention, that is, general and special intervention. Both of these are very effective in eliciting from the dreamer the information necessary to understand a dream. Special intervention consists of three kinds of intervention. (1) questions of level I and II about certain elements or plots of dreams, (2) questions about a correspondence between the dream self and the waking self of dreamers, and (3) questions about the symbolized feelings in dreams. The purpose of this paper is to discuss the significance of the level II question, comparing it with the level I question in which the dream analyst asks for the association about the dream element or plot itself. In the level II question, the dream analyst clears up as much as he can of what is irrelevant and obscure in the same dream element or plot. In other words, in that question, just before the dream analyst starts to ask, he must draw the essential point from the original element or plot. Generally speaking, the level II question tends to tap the deeper mind of the dreamer in comparison with the level I question.

Key words : intervention, level II question, dream analysis, dream skills

I 本稿のねらい

精神分析的な心理療法において介入 (intervention) と言えば、それは一般に質問 (question)・明確化 (clarification)・直面化 (confrontation)・解釈 (interpretation) を指すことが多いが、本稿では、「夢主 (クライアント) 自身の内的枠組みに沿って夢の意味を取り出すためのセラピスト側の質問」という意味で用いたい。

ところで、筆者は先に、これまでの臨床経験をもとに、夢分析における筆者なりの介入技法をざっと素描した (名島, 1997)。本稿では、この介入技法の中のレベルIIの質問を取り上げ、臨床事例の断片に基づきながら、レベルIIの質問の意義について吟味してみたい。

II レベルIとレベルIIの質問

夢の意味はもともと相対的なものである。それは、夢イメージ (dream image) に投影される内容が夢主によって異なるからである。例えば、円 (丸いもの) に対する意味づけは、「和 (調和)」「日の丸 (国家・権威・望郷)」「お母さんが昔作ってくれた梅干し弁当 (愛情)」「車輪 (統体性)」「太陽 (情熱・生命の根源)」「満月 (完成)」などさまざまなものがある。これらは夢主によって

異なるし（個別性）、同一人の夢主でも夢を見た時期や発達段階によって異なる（時間性と発達性）。さらには、これらの中のいくつかが相互に、また層的に折り重なっていることもある（多義性と多層性）。夢の象徴は、象徴の個人的用語集 (a personal glossary of symbols) (Bonime, 1962) しか編めないのである。

このように、夢の意味は一定したものではない。そうであるならば、夢分析においては、できるかぎりセラピスト側の独断的な解釈を避けて、夢主自身の内的な枠組みに沿って夢の意味を探索していくことが大切となろう。そのためには、夢の意味に関わるセラピストからの教示やコメントなしに夢主自身が無理なく夢の意味を捜せるような質問を夢主に行うことが大切となろう。

筆者が夢分析において現在行っている介入技法を全体的に要約すれば、表1のようになる。この表に見るように、セラピストの介入は、一般的介入 (general intervention) と特殊的介入 (special intervention) に大別され、後者はさらに、(1) 夢の構成要素 (dream element) ないし夢のプロット (dream plot) についてのレベルIIの質問、(2) 夢自己 (dream self) と覚醒自己 (waking self) との対応性についての質問、(3) 象徴化された感情 (symbolized feeling) についての質問という三つのものに分けられる。

特殊的介入の(1)は、レベルIIの質問である。レベルIは夢そのものに則した素材、つまり夢の中のある特定の構成要素ないし夢のプロットについての連想を促す質問であり、Freud以後多くの人が用いている方法である。一方、レベルIIは、レベルIのものと同一の構成要素ないしプロットのより質的・抽象的な側面についての連想を促す質問である。例えば、あるクライアント

表1 夢分析における筆者の介入技法

介入	内 容	
一般的介入	夢全体についての感想を問う質問。大別すると、「この夢についてどう思いますか」「この夢のポイント（ないし、この夢の中で特に印象的なところ）はどこなところだと思いますか」の2つがある。前者よりも後者の方が、夢に対する夢主の問題意識を先鋭化させる。これら2つの質問を使い分ける場合、まず前者の質問をして、それに対する夢主の連想を聞いてから、あるいは夢主の連想について話し合った後、後者の質問をする。	
特殊的介入	(1) 夢の構成要素ないしプロットについてのレベルIIの質問	レベルIは、夢そのものに則した素材についての連想を問う質問、レベルIIは、質的・抽象的な要素についての連想を問う質問。例えば、「水がじわじわと増えてくるといって、何か思い浮かびますか」はレベルI、「あなたにとってじわじわ増えてくるものといって、何か思い浮かびますか」はレベルIIの質問である。なお、特別なやり方として、レベルIの質問に対する連想の内容を利用して、レベルIIの質問を行うことがある。
	(2) 夢自己と覚醒自己との対応性についての質問	夢自己と、①現在の覚醒自己、②過去の覚醒自己、③過去から現在までの覚醒自己との対応性についての質問という3つの質問がある。①は、「あなたは夢の中で人々から非難されていますが、現在のあなたの生活の中ではいかがですか」、②は、「過去の生活の中ではいかがですか」、③は、「これまでの生活の中ではいかがですか」といったもの。
	(3) 象徴化された感情についての質問	象徴化された感情 (Bonime, 1962)、つまり夢の中の特定の構成要素に象徴化されていると思える感情についての質問。例えば、「この夢の中の嵐を何かの感情（気持ち）にたとえたとしたら、いかがですか」といったもの。

が、「水がじわじわと増えてきて、部屋の中が水でいっぱいになった」という夢を見たとする、この場合、レベルIの質問は、「水がじわじわ増えてくるといって、何か思い浮かびますか」となる。これは、「増えてくる水」という、夢の中の構成要素の一つについての質問である。

一方、レベルIIの質問では、水という特定のものを消し去って、「あなたにとってじわじわと増えてくるものといって、何か思い浮かびますか」となる。つまり、レベルIIの質問は、レベルIの質問の特殊性を消し去ったものとなる。ちなみに、レベルIIの質問では、「あなたにとって」という言葉を必ず前置きとして置くので、それだけ夢主にとって自己求心的なものが連想されやすくなる。

ここで、夢主の連想を促すための他のやり方について触れてみたい。

まず、精神分析を創始した Freud (1900) のやり方は、ある一つの夢の全体ではなく、夢の内容の個々の部分部分について、それぞれ夢主の連想（脳裏に思い浮かぶこと）を問うというものである。これは、構成要素という出発点を持った自由連想である。出発点はあるがしかし、自由連想が開始されれば、以後は次から次へと連想が進んでいく。もっとも、Freud は、このような自由連想のみに終始したわけではない。後年の *New introductory lectures on Psycho-Analysis* (Freud, 1933) において Freud は、どのような順序で夢主に夢の部分部分に手をつけさせていくかについて3つのやり方を挙げている。第1は、夢が語られたさいに明らかになった時間的な順序に従う。第2は、夢の中に現れた昼の残滓 (day's residues) (夢を見た前日の出来事や思い出の残滓) をまず探し出すようにと夢主に指示する。ほとんどすべての夢は、夢を見た前日の記憶の名残や、出来事のほのめかしといったものを含んでおり、われわれがこのようにつながりを辿っていくと、一見遠くにある夢の世界から現実生活への移行 (transition) が一挙に手に入るがよくあるからである。第3は、夢内容の諸要素の中でも特に明確さと感覚的な強さという点で夢主の心を打つようなものから始めるように夢主に告げる。このような要素の場合、夢主にとって連想を得るのが特に容易になる。

次に、分析心理学の Jung も Freud と同様、夢の構成要素についての連想を促す質問を行う。例えば、夢の中にカニトカゲが出てきたとすると、Jung は、「カニというのは何でしょうか。一体全体、どうしてそのようなものが出てくるのでしょうか」などと夢主に問いかける (Jung, 1968)。ただ、Jung の場合、夢主がある構成要素について何も思いつかない場合には、またもとの夢イメージに帰り、Jung 独特の質問を行う。例えば、夢の中に「樅の木のテーブル (deal table)」が出てきたとすると、「樅の木のテーブルという言葉が何を意味しているのか、私には何も分からないと思って下さい。それがどういった物なのか、どのような歴史があるのか、私によく分かるような言葉で説明してみてください」などと夢主に言う (Jung, 1931)。このように、Jung は、あくまでも夢そのものに密着しようとする。Jung はまた、夢主に対して Jung 自身の思いつきや意見も提示する (Jung, 1929)。ちなみに、「夢面接法」(The Dream Interview Method) を提唱している Delaney (1991) は、例えば、「私が別の惑星からやってきたと思って下さい。あなたが言ったマフィアタイプ (の男) とはどのようなものですか」といった「エイリアンの質問」(the alien's question) を行っている。

Freud も Jung も共に、夢についての夢主自身の連想や思いつきを重視した。ただし、夢の中に象徴的表現が使用されている場合には夢主の連想が出てこない、その場合には、夢象徴についての知識を用いた象徴的夢解釈を行ったり (Freud, 1900)、神話的・集合的な夢 (元型夢 archetypal dream) の場合には、神話や伝説についての知識に基づく解釈を行う (Jung, 1968)。その場合、Freud は夢の背後に潜む意味をもつばら性欲動 (sexual drive) や攻撃欲動 (aggressive

drive)に、Jungは種々の元型に還元していく傾向が強くなる。このような還元はしかし、セラピストの側からの侵入となる危険性をたえず有する。筆者自身としては、セラピストの適切な介入(質問)によってできるだけ夢主自身に夢の意味を見出してもらうことが大切ではないかと考えている。

最後に、フォーカシング(Focusing)を提唱したGendlinは、連想を導くための三つの質問を挙げている(Gendlin, 1986)。それらは、①何が心に浮かんできますか、②どんな感じがしますか、③昨日のことは、というものである。①②は夢の全体ないし一部について問う。ただし、Gendlinの場合、これらの質問はあくまでもフェルトセンス(身体のあいまいな感覚)に夢主の注意を向けるためのものである。

以上のようにいくつかのやり方があるが、筆者が試みているようなレベルIIの質問は、これまでほとんどなされていないようである。ただし、積極的心理療法(intensive psychotherapy)を提唱したSullivan(1953)は、彼の著書である*The interpersonal theory of psychiatry*の中で、ある分裂病質の強迫症患者が報告した夢に対するSullivan流の介入をエピソード的に語っている。その患者が見た夢は、美しい風景の中でゆっくりと回るオランダふうの風車で、風車小屋の内部は無残に荒れはてていた。Sullivanは患者に、「外側は美しく活動的だが、内側はまったく死んで腐っている。これを聞いてどういうことが頭に浮かぶ?」と質問した。患者は、「あ、お母さんです」と答えた。それ以後、患者との面接は急激な進歩を見せたという。このSullivanの質問の内容(外は美しく活動的だが内は腐っている)は、筆者の言いかたをすればレベルIIである。ただし、Sullivanの場合、「これを聞いてどういうことが頭に浮かぶ?(Does it provoke anything?)」と質問している。レベルIIの質問であれば、「あなたにとって、外は美しく活動的だが内は死んで腐っているという、何か思い浮かびますか?」となる。Sullivanの質問の仕方は少し距離を置いたものである。これは、Sullivanが「つねづね強調していた安全保障感(security)のことを配慮したためであろう。

III レベルIとレベルIIの質問の臨床事例

表2から表13は、筆者がこれまで夢分析を行った事例の中から選択したものである。ここには、10人のクライアントが見た計12の夢が取り上げてある。表には、(1)夢主の年齢と性別、(2)夢主の主訴・症状、(3)夢のタイトル、(4)夢内容、(5)夢についての夢主の感想、(6)セラピストの行ったレベルIの質問、(7)レベルIの質問に対する夢主の連想、(8)レベルIIの質問、(9)レベルIIの質問に対する連想が記載してある。表の一番下の欄は、レベルIIの質問の意義についての簡単な考察である。なお、表中の記述にさいしては、10人の夢主のプライバシー保護のため、最低限の記述にとどめた。固有名詞等は略号を用い、病歴や家族歴は省略した。

クライアントから夢が報告された後の、セラピストからの質問の順序は、(1)夢全体についての夢主の感想、(2)レベルIの質問、(3)レベルIIの質問であった。ちなみに、D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D9, D10, D11においては夢の中の特定の構成要素についてのレベルI・IIの質問が行われ、D8においては夢のプロットについての質問が行われた。[夢の結末まで含めて、いくつかの主要な構成要素を組み合わせれば、それがプロットとなる。ごく短い夢では、1つないし2つくらいの構成要素がそのままプロットとなる。]

表2 事例Aの夢(D1)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等*	20代前半の女性。大学4年生。
主訴・症状等	へまをしたり人から批判されたりすると、落ち込んで死にたくなる。1人でいると落ち着かない。友人たちから嫌われているのではないかと思う。自分に自信がない。気分の浮き沈みが激しい。
面接形態・回数	対面法。週1回。
夢のタイトル等	「痩せこけた犬の夢」 22回目面接で報告された夢。1週間前に見たもの。レベルI・IIの質問は、22回目面接で行った。
夢内容	X市の両親の家の庭で犬を飼っている。(夢の中では)庭の奥にその犬がいる。痩せこけていて、こっちをじっと見ている。大丈夫かなと思って犬の頬を触るが、犬は元気なさそうにじっとこちらを見ている。こんなになって大丈夫かなと思ってまわりを見たら、大丈夫大丈夫といった顔で母と弟がこっちに来る。そこで場面が変わる。母、私の兄弟、私の5人がこたつに入って寛いでいる。そこで終わり。(家族で何かしていた?)ただこたつに座っているだけ。4人が先にこたつに入っていて、私が後からそこに入った。別に、テレビを見ていたとかじゃない。
夢についてのAの感想	あまりよく覚えていない。犬が痩せてたなー、こたつに入っていたなーという感じ。
レベルIの質問	痩せこけた犬というと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	やっぱり両親の家で飼っている雄の柴犬。実際には、帰ったら私に飛びついてくる。すごく元気。肥ってはいませんが、柴犬の中では大きい方。夢の中では痩せこけていた。灰色っぽい毛で、ゴワゴワ。実際の色は明るい茶色だが、夢の中では灰色っぽい。相当ゲソツと痩せている。なんでこんなに痩せたんだろうと思う。
レベルIIの質問	あなたにとってやつれて元気がないものというと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	私のお父さんかな。私が(他県の)大学に入ってから元気がない。しかし、他の家族は明るい。

構成要素に関するレベルIの質問に対して、Aは、両親の家で飼っている柴犬のことを述べ、しかも、夢の中の犬と実際の犬との違い(前者は痩せこけているが後者は元気である)について言及している。一方、これに対して、レベルIIの質問では、Aが親元を離れてから元気のなくなった父のことをAは連想している。つまり、レベルIにおけるA-犬関係がレベルIIではA-父関係(娘-父関係)へと変化している。ちなみに、この夢についての話し合いの後、Aは、Aの父は家族の皆に好かれようと思ってあれこれやるが、かえって嫌われてしまって落ち込んでしまう、そういう点はAとそっくりだとAの母や祖母が言う、と述べた。

* 夢主の年齢は、夢が報告された時の年齢である。表3以下も同様。

表3 事例Bの夢(D2)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	30代半ばの男性。会社員。
主訴・症状等	窮地に立ったさいの反動としての自己誇大感。関係妄想。対人関係の不良。
面接形態・回数	対面法。月1回。
夢のタイトル等	「バッグのような重い物を抱えた夢」 Bは退院して4日目に会社。翌日(会社は休み)の朝、セラピストとの2回目面接。その日の夕方、セラピストの職場の電話に留守録で報告された夢。夢の内容やレベルI・IIは、8回目面接で行った。
夢内容	重い物を抱えていて、腕が千切れそうになる。少し歩いたかも。目的があったかも。もうちょっとの場所で降ろせるんだけど、手が痛くてもた

夢についての B の感想	ない感じ。落としはしなかった。バッグか何かを持っていて重かった。この夢を見た頃はよく寝ていた。金がなくてパチンコも行かんし、テレビも面白くないで寝ていた。夢では、バッグか何かを持っていて重かった。
レベル I の質問 質問に対する連想	何かバッグのような重い物というと、何か思い浮かびますか? 何か重い物。
レベル II の質問 質問に対する連想	あなたにとって腕が千切れそうになるほど重い物というと、何か思い浮かびますか? 仕事には行きたいが、行きたくないというジレンマ。元気じゃなくてボーとしていたから、そういう自分をみたら人はどう思うか。

この夢は、B が久し振りに入社した次の日に見たものである。構成要素に関するレベル I の質問では特に意味のある連想はなされていないが、レベル II の質問では、他者からの評価を気にする B の心の中のジレンマが表明されている。

表 4 事例 B の夢 (D3) についてのレベル I とレベル II の質問

年齢・性別等 主訴・症状等 面接形態・回数 夢のタイトル等	30 代半ばの男性。会社員。 表 3 に記した。 対面法。月 1 回。 「調子の悪い車の夢」 11 回目面接で報告された夢。先週くらいに見たもの。レベル I・II の質問は、11 回目面接で行った。
夢内容	私が運転していたか、誰かが運転していたかは覚えていないが、車が故障しがち。新車だったが、今私が乗っている車とは違う。色も、今乗っている白とは違い、深い群青色。車種も違う。しかし、夢の中では私の車。それがちょっと調子が悪い。(どんなふう?) エンジンがちょっとおかしい。夢の中でその車が走っているのを見て、何となく調子のおかしい車だと思った。車の後ろ姿を見て、おかしいと思った。排気ガスの感じが。
夢についての B の感想	突拍子もない夢だったので、何かあるのかなーと思った。
レベル I の質問 質問に対する連想	エンジンの調子が悪いというと、何か思い浮かびますか? この夢を見る前に少し気にしていた。(私の車は) 5000km を超えていたし、そろそろ点検せんといかんかなーと。調子は悪くないが、で、今週の初め (5 日前) にみてもらった。オイルだけ交換してもらった。
レベル II の質問 質問に対する連想	あなたにとって調子が悪いものというと、何か思い浮かびますか? 自分の調子が落ちている。10 日前に風邪をひいて、それがそのまま続いている。熱はない。咳もないが、鼻がジュルジュルする。なかなかよくなるし、早く目が覚める。朝 5 時には目が覚める。私は、(精神的に) 悪くなったらドドドッといくので、眠り (不眠) や肩こりとかに神経質になっている。

構成要素に関するレベル I の質問では、B が実際に乗っている車との関係について述べられている。これに対してレベル II の質問では、「自分の調子」の悪さが連想されている。夢の中の車は、B の身体像 (body image) であろう。

表 5 事例 C の夢 (D4) についてのレベル I とレベル II の質問

年齢・性別等 主訴・症状等 面接形態・回数 夢のタイトル等	30 代前半の男性。無職。 対人関係の不良。頻回の転職。行動化。 対面法。週 1 回。 「泥まみれのレースの夢」 35 回目面接で報告された夢。3 日前に見た
--	--

夢内容	もの。レベルI・IIの質問は、次の36回目面接で行った。泥まみれのレース場を四つん這いになって進む。両手両足を使って。そんなに大勢はいなかった。荒地のような所。野原。
夢についてのCの感想*	この夢には続きがある。寄生虫が部屋の中で発生して私はたかられる。それから多分ドクターのところへ行ってそのことを話す。
レベルIの質問	泥まみれのレースということで、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	カーレースとか出世の競争とか。
レベルIIの質問	あなたにとって泥まみれというと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	私の経歴ですね。履歴書を書くたびに思う。2浪だし、(大学は)3年留年。職歴もムチャクチャ。今、休職中。(職歴は合計何回?)5回。どれも3カ月から半年。プライドが泥まみれ。

構成要素に関するレベルIの質問では文字通りレース(競争)が連想されている。たしかにレースも泥だらけになって行くものではあるが、レベルIIの質問では、泥まみれの経歴=泥まみれのプライドという、Cのより心理的な側面が強調されている。

* 夢についての感想を問うと、Cが寄生虫云々と言いだしたので、そのことについて聞くことになった。結果的に、「泥まみれのレースの夢」それ自体についてのCの感想は聞き漏らした。

表6 事例Dの夢(D5)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	30代後半の男性。自営業。
主訴・症状等	女性嫌悪。同性への志向。時折の不安発作。
面接形態・回数	対面法。2週間に1回。
夢のタイトル等	「包丁を持った女の子に追いかける夢」 350回目面接で報告された夢。13日前に見たもの。レベルI・IIの質問は350回目面接で行った。
夢内容	女の子が長い包丁を持って追いかけてくる。逃げて逃げて、グサツときた瞬間に目が覚めた。
夢についてのDの感想	女の子はうちの店によく来ていた。彼女には問題があった。高校3年の時、ある日いきなり来て、反応を見るからと言って試薬を取り出し、私は妊娠していると言った。その子はいろんな男の子と付き合っていた。私は生めと言ったが、彼女は中絶した。去年の秋のことだった。費用の7万円は私が立て替えた。今でも時々店に来るが、中絶以来何となく距離がある。
レベルIの質問	女の子に追いかけるということで、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	別に心当たりはない。彼女に対する不信感があったのだろうか。
レベルIIの質問	何かに追いかけて回されるとしたら、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	社会一般の偏見のようなもの。もっとも、これは前からあったが。いつも、やられるやられるという意識がどこかにあって。(どんな偏見?)性のみでなく、結婚していないこととか、母がいなくなって1人でやっている自分……今までは母の影的な自分だった。家の中を片づけていると、母と一緒に写真が出てきた。母が私を抱いている写真では母はまったく笑っていない。冷たい感じ。しかし、母が妹と手をつないでいる時はニコニコ笑っている。しかし、今、母に対する怨みはない。怨みというよりもさみしさ。母に対して求めていた愛情を、母は私に示しきれなかったんだと思う。

構成要素に関するレベルIの質問では、Dの忠告を聞かなかった女の子に対する不信感めいたものが表明されている。一方、レベルIIの質問では、他人の目を気にするDの心の動きや、Dを置き去りにして出ていった母に対する複雑な気持ちが連想されている。実のところ、Dの店をそれまで無給で手伝っていた母親は、この夢の23日前に、Dに何も言わずに、もちろん行き先も告げずにDと一緒に暮らしていたアパートを出て行ってしまっていた。

表7 事例Dの夢(D6)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	30代後半の男性。自営業。
主訴・症状等	表6に記した。
面接形態・回数	対面法。2週間に1回。
夢のタイトル等	「大きなゴキブリと蜘蛛の夢」 354回目面接で報告された夢。今朝見たもの。レベルI・IIの質問は354回目面接で行った。
夢内容	2匹の蜘蛛が出てきて、怖くてたまらなかった。最初ゴキブリが出てきた。大きさが50cmくらい。うわーと言って、怖くて逃げ回った。次に蜘蛛が2匹出てきた。手の平を広げたくらいの大きさが2匹。怖くて怖くて、逃げ回った。
夢についてのDの感想	ゴキブリも蜘蛛も大嫌い。特に馬は絶対嫌い。蛇も絶対だめ。
レベルIの質問	ゴキブリとか蜘蛛というと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	蜘蛛は毛むくじゃら。足が長くて気持ち悪い。うわー、考えただけで気持ち悪い。吐き気がする。多分私は昔から蜘蛛に食べられる虫だった。
レベルIIの質問	あなたにとってどうにも受け入れられない、吐き気のするような気持ち悪いものというと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	雷。(自分自身のことでは?)そういう部分。(どういう意味?)性的にドロドロした部分。自慰とかで(男性のことを)空想する部分。自慰そのものは気持ちいいが、しかし、そういうふうになっている自分は気持ち悪い。自分の身体も気に入らん。特に最近は年齢。鏡を見ても見苦しい。胸毛はまあまああるが、しかし、胸はペコンとへこんでいる。大嫌い。もっと均整のとれた身体になりたい。好きになった人は、そういう体格の人が多い。

Dの夢の中には、ゴキブリや蜘蛛に対する恐怖感があった。夢についての感想では、ゴキブリと蜘蛛に対する嫌悪感、レベルIの質問に対する連想では、蜘蛛に対する嫌悪感が表明されている。レベルIIの質問では、このような嫌悪感(気持ち悪さ)を取り上げてみた。それに対するDの連想は、最初は雷であったが、「自分自身のことではどうか」という追加質問に対してDは、彼の中にある同性への志向や、身体に関する自己愛的な願望を表明した。

表8 事例Eの夢(D7)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	20代半ばの男性。大学4年生。
主訴・症状等	生活のリズムが整わない。独り言がまだ時折ある。
面接形態・回数	対面法。週1回。
夢のタイトル等	「髪の毛が二つに別れる夢」 4回目面接で報告された夢。昨日か一昨日に見たもの。レベルI・IIの質問は4回目面接で行った。なお、レベルIIに対するEの応答は、6回目面接でも吟味した。
夢内容	髪の毛をセットして二つに別れた。それだけ。(誰がセット?)私の夢は混乱する。自分がやっていたのか誰かがやっていたのか曖昧。多分、初め自分でやっていて、そのあと専門の人がセットして、やっぱり二つに別れた。専門の人、もしくは家の人。夢は初めぼんやりしていた。誰かがやって、やっぱり二つに別れますねーと言い、そこでバンと二つに別れたのが見えた。高校の時から二つに分けていたので、どうやっても二つに別れる。
夢についてのEの感想	何でこんな夢を見たのかというと、思い当たる。就職試験を受けるのに履歴書を書くが、それに写真を貼る。今年の2月か3月に写真屋に行った。その時、写真屋の人が私の髪の毛を箆で整えてくれた。それがベースになったかも……髪形をずっと意識している。もっとうまい具合にま

レベルIの質問	とまらんかなと。自分でも認めている。他の人にも言われたことがある。髪の毛がボサボサと。夢の中では髪の毛がバンときれいに二つに別れていた。そこだけくっきりしていた。
質問に対する連想	家の人が髪の毛をセットしてくれるという、何か思い浮かびますか？
レベルIIの質問	思い出した。高校生の時、姉が、もうちょっとかっこよくならんかと言って、私の髪をよく整えてくれた。
質問に対する連想	この夢のように、あなたにとって人に手入れされたいものという、何か思い浮かびますか？
質問に対する連想	いっぱいある。部屋の掃除とか精神的なもの。人に手入れされたいという、名島先生のようなカウンセラーとか。というのは、精神的なバラツキを常識的な方向に整理してもらいたかった。感情の上がり下がりがある。

夢内容を語った時、Eは、髪の毛のセットをしたのは、専門の人か家の人と述べた。そこで、構成要素に関するレベルIの質問では、「家の人が髪の毛をセットしてくれる」という点に焦点をあてた。これに対してEは、姉のことを連想した。レベルIIの質問では、「手入れされたいもの」に焦点をあてた。Eは、ここでは専門の人(カウンセラー)を連想し、精神面での手入れ(整理)への欲求について述べている。

表9 事例Fの夢(D8)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	20代前半の女性。大学3年生。
主訴・症状等	友人がいない。皆から嫌われているような気がする。死にたくなる。
面接形態・回数	対面法。週1回。
夢のタイトル等	「すごく困る夢」 4回目面接で報告された夢。今朝見たもの。レベルIの質問は4回目面接で、レベルIIの質問は5回目面接で行った。
夢内容	私は白い軽自動車に乗っている。車を道端に停めた時、3人の人が寄ってきた。中年のおじさんとおばさんで、もう1人は覚えていない。その人たちは私の車に乗せろと言う。詐欺師のような、定職のない人たち。その人たちを車に入れてはいけない。(詐欺師?)詐欺師というか、きちんとした仕事についていない。とにかく、いけない仕事についている人たち。口汚い人たち。乗せろとか、発車しろとか言って、おじさんもおばさんも柄が悪くて恐かった。で、私はただ困っている。ただすごく困って目が覚めた。
夢についてのFの感想	車の夢を見たのは、この連休にガソリンスタンドでアルバイトしたせいだと思う。
レベルIの質問	柄の悪い人たちが乗り込んでこようとして困ったことについて、何か思い浮かびますか？
質問に対する連想	ガソリンスタンドにいた時に柄の悪い人たちがいた。でも、明日から学校が始まるのに、なぜこんな夢を見るのだろうか。
レベルIIの質問	あなたにとって、何かが乗り込んでこようとして困ったという、何か思い浮かびますか？
質問に対する連想	春に(大学の授業の)実験で一緒になった人(女性)からひどく攻撃されたので、それが残っていたのかもしれない。この子は話しかけても、返事もしてくれなかった。(攻撃というとは具体的に?)実験は1日かかるので途中で教室で食事(弁当)していると、この子は別の人と一緒に少し離れた所で食事していて、あんな人と一緒に御飯食べたくないよねーというようなことを言った。(あんな人とはあなたのこと?)その時一緒に御飯を食べていたのは、私ともう1人の女の子。どちらかという、私のことを言ったと思うのが妥当じゃないでしょうか。

プロットに関するレベルⅠの質問では、アルバイト先での経験、レベルⅡの質問では、大学におけるFの対人体験が連想されている。「攻撃する(侵入する)－攻撃される(侵入される)」という軸は、Fの対人関係の重要な特性の一つであろう。

表10 事例Gの夢(D9)についてのレベルⅠとレベルⅡの質問

年齢・性別等	20代前半の女性。大学4年生。
主訴・症状等	周りの人の評価を気にする。気分がむらがある。ささいなことで自暴自棄になる。
面接形態・回数	対面法。不定期。
夢のタイトル等	「ダチョウに乗って移動する夢」2回目面接で報告された夢。1週間前のもの。レベルⅠ・Ⅱの質問は2回目面接で行った。
夢内容	ダチョウに乗って山奥を移動していた。ダチョウなので、とても楽に移動。すると、山肌で多くの人が地質調査をしていた。その人たちは皆、中学時代の人。私はダチョウから降りて、彼らに加わって地質調査をした。そこで終わり。(夢の場所は?)行ったことのない所。テレビなんかで見る溪谷の景色。晴れた日の、溪流のある山。
夢についてのGの感想	地質調査の夢は楽しい。よく見る。中学時代の友人がよく出てくる。ただ、中学時代は私にとってあまりいい時代じゃなかった。(どういう意味?)つらくてつらくてたまらなかった。白日夢の中を生きているようだった。母が成績のことに厳しくて、それを言われるのがつらかった。母の望む成績が取れずに、母は、私の人格のすべてを否定するような感じだった。
レベルⅠの質問	あなたはダチョウに乗って楽に移動していますが、このダチョウという事で何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	ダチョウというよりも、小柄なエミュー。この夢を見る前に、テレビのCMで出てきた小さなダチョウ。羽の小柄なやつ。茶色。動物園で見たことがある。
レベルⅡの質問	夢の中のダチョウのように、あなたがずがって楽になるものという、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	私は楽になりだすと自分に歯止めがきかなくなりそう。母は私に、二宮金次郎のように勤勉に生きろと言っていた。楽になってはいけないと思うので、イメージが湧かない。不安が消えれば楽になる。具体的に母の望むような行動をとれたらいいというのが常にあって、それがなければ楽。私の応援をしてくれる友人を持ったら楽。1人きりだということがわりといや。家族しかいないが、その家族ですら満足 of いく行動を私がとっていないのが悩み。

構成要素に関するレベルⅠの質問では、ダチョウについての連想というよりも、ダチョウ(エミュー)についての説明となっている。これに対してレベルⅡでは、自分が母の望むような行動を取れたら楽になるというGの願望が表出されている。

表11 事例Hの夢(D10)についてのレベルⅠとレベルⅡの質問

年齢・性別等	20代前半の女性。大学4年生。
主訴・症状等	小学生の時から現在まで、数年に1回くらいの割合で繰り返し見ている津波の夢のことが気になる。現在特に問題はない。強いて言えば、あれこれと考えすぎる性格。
面接形態・回数	対面法。2週間に1回。
夢のタイトル等	「津波に襲われる夢」4回目面接までに、Iが見た小学生の時の夢二つ(夢①と夢②)と、中学生の時に見た夢一つ(夢③)の内容を整理した。これらの夢に共通する「津波」の意味については、5目面接で集中的に吟

夢内容	<p>味した。</p> <p>夢①：1階の窓から団地の広場を見ていたら、向こうからすごい津波が押し寄せてくる。ビルの10階建てくらいの大きさ。私は、お父さん、助けてと叫んだ。もうだめだと母と話していたら、その波がバシャーンと来た。で、私は階段を5階に上がって行って、部屋の中へ入った。部屋の中は水はないが、外は水だらけで、死体がいっぱい浮いていた。うわー、何これと思った。すると、窓がピシピシ鳴りはじめ、水がどつと入ってきたところで目が覚めた。</p> <p>夢②：家族でラーメンを食べて、車で帰るところ。私は後部座席から外を見ていた。そうしたら、10階建ての波が来た。私は、お父さん、お母さん、津波が来たと叫んだ。父は猛スピードで車を走らせた。しかし、バシャーンと波が来て、呑み込まれるというところで目が覚めた。</p> <p>夢③：家族で船に乗っていると、ものすごく大きい津波が来て、皆は外に投げ出された。そこへまた波が来た。風呂の蓋のようにパタンと波が覆いかぶさって外へ出れない。ああ、外へ出れないと思いつつ、苦しくて苦しくて、もがいて目が覚めた。</p>
夢についてのHの感想	<p>実際に津波に襲われたことはない。なぜ津波の夢を見るのか。水に対する恐怖感があったのか。たしかに小学校4年生くらいまではプールに顔を漬けるのも嫌だったが……私の前世は津波で死んだのではないかと、親に言ったことがある。</p>
レベルIの質問 質問に対する連想	<p>津波が襲ってくるというと、何か思い浮かびますか？ 恐怖感しかない。襲ってくる恐怖感。どうしようもない無抵抗感。</p>
レベルIIの質問 質問に対する連想	<p>何か圧倒的な力で襲ってくるものというと、何か思い浮かびますか？ うーん……中学にしろ高校にしろ、人の目。今はそうでもないが、当時は、人が自分のことをどう思っているのか、すごく気になっていた。ひどく引込んで、自分をまったく主張しなかった。悪口を言われるのが嫌で、人に合わせていた。小学校の時はけっこういじめられて泣いていた。人に話しかけるのが怖くなった。</p>
<p>夢①②③はそれぞれ状況が異なるが、いずれも津波がやってきて、津波に呑み込まれるところで目が覚めている。これらの夢に対するHの感想は、津波に対する恐怖感である。構成要素に関するレベルIの質問に対しても、Hは恐怖感（ならびに無抵抗感）と述べている。しかし、レベルIIに対しては、小学校時代にいじめにあって泣いたこと、中学・高校では人の目が怖くなったこと、自分を主張せず他者に合わせていたことなどを連想している。</p>	

表12 事例Iの夢(D11)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等 主訴・症状等	<p>20代前半の女性。無職。 吃音のため、小学校3年生頃から対人緊張や劣等感。自分に自信がない。人が怖い。自分は人がいいので、他人に利用されそう。無気力。気が沈む。自殺念慮。</p>
面接形態・回数 夢のタイトル等	<p>対面法。週1回。 「デパートが崩れる夢」 4回目面接で報告された夢。19日前の朝に見たもので、これは1回目面接の2日後にあたる。なお、レベルI・IIの質問は4回目面接で行った。</p>
夢内容	<p>私が見ていると、デパートが崩れる。人々が逃げまどう。私は恐怖で足がすくんでいる。皆、崩れる建物の下敷きになって死んでいく。そのあと、デパートはそれまでの近代的な建物から、レンガ造りに変わっていた。</p>

夢についてのIの感想	すごい夢で、目が覚めてからドキドキしたのと、崩れることでちょっとすっきりした。
レベルIの質問	デパートが崩れるということで、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	建物が崩れる夢はよく見る。
レベルIIの質問	あなたにとって何かが崩れるというと、何か思い浮かびますか?
質問に対する連想	自分自身の性格がどんどん崩れていくみたい。

構成要素に関するレベルIの質問に対してIは、「建物が崩れる夢はよく見る」といった客観的な答えかたをしたが、レベルIIの質問に対しては、「自分自身の性格がどんどん崩れていくみたい」と述べている。Iは、薬物療法を行っているIの主治医に対してやっとの思いで、「誰か自分の心の悩みを聞いてくれるカウンセラーを紹介してほしい」と言い、主治医の紹介でセラピストの許にやってきた。この「デパートが崩れる夢」は、第1回目の面接が終わった後でIが見たものである。Iは夢についての感想で、「崩れることでちょっとすっきりした」と述べている。長い間対人緊張や対人恐怖に悩んできたIは、セラピストとのこれからの面接に、これまでの自分の嫌な性格が「崩れていく」のではないかという希望を抱いたものと思える。

表 13 事例Jの夢(D12)についてのレベルIとレベルIIの質問

年齢・性別等	20代前半の女性。大学4年生。
主訴・症状等	小さい頃に繰り返し見た「崖から落ちる夢」や、最近見た「渦巻きの中に引き込まれそうになる夢」のことが気になる。夢の意味を知りたい。もともと内気で人見知りの激しい性格。大学に入って1年間外国の大学に留学したことで少し明るい性格になった。
面接形態・回数	対面法。週1回。
夢のタイトル等	「渦巻きの中に引き込まれそうになる夢」 1回目面接で報告された夢。1週間くらい前に見たもので、Jは予めレポート用紙に書いて持ってきた。レベルI・IIの質問は3回目面接で行った。
夢内容	私は海の中にいた。友だちもかなりいて、知らない人もいて、海上パーティのような感じで泳ぎながら楽しむというもので、泳ぎ疲れた人はそこに一つの船があり、そこで休むことができる。私は皆と楽しく泳ぎながら遊んでいた。その集まりも終わり、皆で帰ろうということになった時、皆船に上がって帰ろうとしていて、私もそこへ行こうとしたら、すぐ近くに渦巻きができていて、引き込まれそうになったので、必死に逃げようとするのだけれど、逃げても逃げても近くにあつて私を巻き込もうとする。そのうちに目が覚めたが、目が覚めた時すごくぐったり疲れていた。十分寝たのに身体がだるく、疲れていた。朝起きたばかりなのに、もう疲れていた。(渦巻きと船の大きさは?)渦巻きは船と同じくらいの大きさ。船はホーバークラフトくらいの大きさ。私は上からヘリコプターで見ているような感じ。小さい私と渦巻き。泳いでいる自分も感じていた。(海の色は?)海は緑。太陽が照っていて、緑がキラキラ反射していた。船は大きくて白い船だった。
夢についてのJの感想	この夢は、郷里で就職試験を受け、ぐったりと疲れた日の次の朝に見たもの。その試験に対して勉強するのが遅かったこともあり、十分な自信がないまま臨み、予想通り結果は思わしくなかった。今までの人生であまり大きな失敗をしたことがなく、何でもある程度こなしてきたが、今回だけはまるで乗り気なく自信もなかった。少々のショックと試験の疲れで、その日はぐったりだった。熱とかはなかったが。
レベルIの質問	渦巻きがあなたを引き込むというと、何か思い浮かびますか?

質問に対する連想	このままだと渦巻きに引き込まれるというところで目が覚めた。私はいつもそう。とことん行かない。他人に対しても断定的な言いかたを避ける。一種の予防線を張っているよう。
レベルIIの質問	あなたにとって逃げて逃げてあなたを引き込もうとするものという、何か思い浮かびますか？
質問に対する連想	無力感のようなもの。今20代前半で、しかも将来の進路がはっきりしない。何かやるにしても、何か勉強するにしても2、3年かかるので、すると20代後半になる。で、また勉強したら、また数年かかる。すると、どんどん年が過ぎていく。いろいろな可能性があって、どこに進もうかといった感じ。いつもそういった不安の中に引き戻される感じがある。(本当は何をしたい?)それが分からない。何か自分の専門を生かした仕事とは思っているが。

構成要素に関するレベルIの質問に対して、Jは他者との関係などを連想したが、レベルIIの質問に対しては将来の進路についての不安を述べた。

IV レベルIIの質問の意義

本節ではまず、12の夢それぞれについて、レベルIの質問と比較した場合のレベルIIの質問の意義について考察し、次に総合的な考察を行いたい。

1 12の夢

(1) Aの「痩せこけた犬の夢」(D1)： この事例は、セラピスト(筆者)が初めてレベルIIの質問を行ったものである。Aの夢の中の犬は、痩せこけていて、元気なさそうにAを見つめていた。そこでセラピストは、「痩せこけた犬」という構成要素について何か思い浮かぶかとAに質問した(レベルI)。

これに対してAは、両親の家で飼っている犬は元気であり、夢の中の犬はなぜあんなに痩せていたのかと不思議がった。

この時点でセラピストは、ふと思いついて、「あなたにとってやつれて元気のないものという、何か思い浮かびますか」という質問(レベルII)を行ってみた。するとAは、Aの父親のことを連想した。父親は、Aが他県の大学に入学して以来元気がないとのことであった。これを聞いたセラピストはびっくりした。同じ夢なのに、セラピスト側の言葉による介入をほんの少し違ったものにするだけで、Aの視点がまったく別のものに転換したからである。つまり、A-犬関係(より正確に言えば、夢の中の犬と実際の犬との対比)がA-父親関係へと転換したからである。

(2) Bの「バッグのような重い物を抱えた夢」(D2)： Bは、「バッグのような重い物」についてのレベルIの質問に対しては、「何か重い物」と言っただけであった。しかし、次のレベルIIの質問に対しては、「仕事(職場)には行きたいが、(その反面)行きたくないというジレンマ(がある)」と述べた。

(3) Bの「調子の悪い車の夢」(D3)： Bは、「エンジンの調子の悪さ」についてのレベルIの質問に対しては、Bが現在乗っている車に対する気遣いを連想したが、次のレベルIIの質問に対しては、B自身の身体の調子の悪さ(風邪による症状)に対する懸念を連想した。

(4) Cの「泥まみれのレースの夢」(D4)： 「泥まみれのレース」についてのレベルIの質問では、Cは、カーレースや出世競争といった一般的な事柄を連想した。しかし、レベルIIの質問に

対しては、C自身の泥まみれの経歴（留年と頻回の転職）と泥まみれのプライドを連想した。

(5) Dの「包丁を持った女の子に追いかける夢」(D5)：「包丁を持った女の子に追いかける」ということについてのレベルIの質問では、Dは、「別に心当たりはない。彼女に対する不信感があったのだろうか」。しかし、レベルIIの質問では、どうしても異性を愛せないDに対する他者の目（偏見）と、Cの母親の冷淡さが連想されている。

(6) Dの「大きなゴキブリと蜘蛛の夢」(D6)：ゴキブリと蜘蛛に対して、夢の中のDは「怖さ」を抱いていた。夢についてのDの感想では、嫌悪感が強調された。「ゴキブリとか蜘蛛」についてのレベルIの質問では、Dは、「気持ち悪さ」と「吐き気」を強調した。これは、夢についての感想で述べられた嫌悪感をより具体的に述べたものである。

セラピストは、次のレベルIIの質問においては、レベルIの質問に対するDの答えを利用して、「あなたにとってどうしても受け入れられない、吐き気のするような気持ち悪いものという、何か思い浮かびますか」と質問してみた。これに対してDは最初、「雷」を連想した。そこでセラピストは、自分自身のことではどうかという追加質問を行った。これに対してDは、性的関心がどうしても同性へと向かってしまう自分自身に対する気持ち悪さを連想した。

(7) Eの「髪の毛が二つに別れる夢」(D7)：夢の中でEの髪の毛をセットしたのは、専門の人か家の人であった。セラピストは、レベルIの質問においては、家の方のほうを取り上げて質問した。これに対してEは、高校生の時にEの姉がよくEの髪の毛を整えてくれたことを思い出した。一方、レベルIIの質問においては、Eは、Eの「精神的なバラツキ」を専門家に整理（手入れ）してもらいたいという欲求を連想した。

レベルIの答えもレベルIIの答えも共に、Eの個人的な事柄である。ただし、レベルIは高校時代の姉という過去の思い出であり、一方、レベルIIは専門家に対する現在の欲求である。

(8) Fの「すごく困る夢」(D8)：セラピストは、「柄の悪い人たちがFの車に乗り込んでこようとして困る」という夢のプロットについて、レベルIの質問を行った。これに対してFは、連休中にガソリンスタンドでアルバイトを行った時に柄の悪い人たちがいたことを述べた。この連想内容は、夢についての感想を問うた時の質問に対する答えと関連していた。

一方、レベルIIの質問に対してFは、大学での授業（実験）で一緒になる一人の女子学生のことを連想した。Fは授業において、彼女から攻撃されたと認知している。

(9) Gの「ダチョウに乗って移動する夢」(D9)：「ダチョウに乗って楽に移動する」ということについてのレベルIの質問では、Gは、テレビのコマーシャルや動物園で見たエミューのことを語った。一方、レベルIIの質問では、楽になりたいというG自身の願望を語った。Gの母親が望むような行動をGが取れたら、Gの不安は消えてGは楽になるというわけである。

(10) Hの「津波に襲われる夢」(D10)：「津波が襲ってくる」ということについてのレベルIの質問では、Hは、恐怖感と無抵抗感（どうしようもない感じ）を述べた。一方、レベルIIの質問に対しては、「人の目」を強調した。もともとHは小学校の時にいじめにあい、それ以後、中学から高校にかけて、他人が自分のことをどう思っているのかということや、他人から何か悪口を言われはすまいかといったことがひどく気にかかるようになった。その結果Hは、自己主張をまったくしないで、ひたすら周囲の意見や動きに自分を合わせていくという対人パターンを取るようになったのである。

(11) Iの「デパートが崩れる夢」(D11)：「デパートが崩れる」ということについてのIの連想は、「建物が崩れる夢はよく見る」というものであった。一方、レベルIIの質問に対しては、Iは、「自分自身の性格がどんどん崩れていくみたい」と述べた。

この夢は、セラピストとの初回面接が終わって2日後に見られたものである。夢の中のIは恐怖感を感じていたが、夢から覚めた時には、「(建物)が崩れることでちょっとすっきりした」という感じを抱いている。対人恐怖・無気力・劣等感といったIの「性格」が崩れていってほしいというIの願望が、この夢の持つ潜在的な意味であろう。

(12) Jの「渦巻きの中に引き込まれそうになる夢」(D12)：「渦巻きがJを引き込む」ということについてのレベルIの質問に対して、Jは、渦巻きに引き込まれる寸前で目が覚めた、自分はいつもとことんまでいかない、他人に対しても一種の予防線を張っているよう云々と述べた。これは、Jの現在の性格について述べたものである。一方、レベルIIの質問では、Jは、将来の進路がはっきりしない不安と無力感を語った。

2 総合的考察

以上を要約すれば、レベルIIの質問によって、D1では元気がない父親(への気遣い)、D2では出社にまつわる内心の葛藤(ジレンマ)、D3では自分の身体の不調に対する懸念、D4では泥まみれの経歴とプライド、D5では母親をも含めた他者の目の冷たさ、D6では自分の中の嫌な部分に対する嫌悪感、D7では専門家(セラピスト)に精神面の整理をしてもらいたいという欲求、D8では大学という夢主の生活の主要場面における否定的な対人体験、D9では母親の過酷な期待、D10では他者の目(評価)、D11では自分の嫌な性格が壊れていってほしいという願望、D12では将来の進路がはっきりしないという不安と無力感といったものが抽出された。これらはすべて、夢主が自分から連想したもので、セラピストから示唆ないし教示したものはまったくない。

レベルIの質問と比較すると、レベルIIの質問では、一般的な事柄よりも特殊的・個人的な事柄(D4・D10・D12)が、動物や物よりも夢主にとって重要な他者(D1・D9)ないし夢主の精神的な事象(D2・D3・D6・D11)が、一般的な(距離の遠い)他者よりも夢主にとって重要な関心のある(距離の近い)他者(D5・D7・D8)が連想されやすい。なお、レベルIとIIの質問の全体的な比較は、表14にまとめた。

表14 レベルIとレベルIIの質問の比較

比較項目	レベルIの質問	レベルIIの質問
質問の素材	即物的・具象的	質的・抽象的
質問形式	拡散的・遠心的	収束的・求心的
侵襲性	低い	低い
効果性	概して表層的 自我疎遠的	概して深層的 自我関与的

V ま と め

一般的に言って、意識から解離されている心的内容は、外界にある類似物に投影されやすい。類似物は、本稿の場合で言えば、(1) 他者、(2) 動物(犬や蜘蛛)、(3) 物(重いバッグや車)、(4) 自然(泥や津波、渦巻き)などである。つまり、夢主が普段関わっている人間的・非人間的環境に投影されやすい。しかし、夢主自身は、この投影を自ら打ち破ることが困難である。そこにこそ、夢分析家(dream analyst)の役割が出てこよう。

夢の意味を取り出すという作業は、たとえば言えば、硬い椰子の実を割って中の果肉を取り出すようなものである。椰子の実は外側を硬い殻で覆われているので、夢主だけの力では割ることがむづかしい。夢分析家の最初の役割は、この硬い殻を無理のないやり方で割ってあげることである。もしも乱暴なやり方をすれば、中の果肉まで傷つけてしまう。うまく殻が割れれば、あとは夢主自らが果肉を掬い取ることができるのである。果肉を掬い取ることができれば、それを今後の生きる糧として活用することも可能となろう。

筆者は本稿において、夢の意味に接近するための特殊な介入技法として、レベルIIの質問を紹介し、その意義を考察した。普通よくなされる構成要素についての連想を求める質問に比べると、レベルIIの質問は、夢主の意識の背後に横たわっている深層に接近しやすくなる。しかも、レベルIIの質問は、「あなたにとって□□という、何か思い浮かびますか」といった形の質問なので、それが強制的に夢主の答えを引き出すことはない。つまり、レベルIの質問と同様、夢主に対する侵襲性は低い。逆に言えば、夢主の(乏しい)安全保障感にあまり脅威を与えないですむ。

筆者は、日常の臨床場面においては、このレベルIIの質問の他、夢自己と覚醒自己との対応性についての質問、象徴化された感情についての質問などを用いている(例えば、Najima, 1996)。これらは言うまでもなく、相互補完的なものである。例えば、レベルIIの質問によって引き出されたものを夢主の夢自己の一部とみなし、それが覚醒時におけるものとどのように対応しているかを吟味するといった具合である。要は、夢の中の自分と覚醒時の自分との相互的活性化(mutual activation)にある。二つの自分が相互に相手を活性化していけば、夢主の人生はより豊かなものとなるように思われる。その意味では、夢の機能とは、人の生の拡大と深化にある。

引用文献

- Bonime, W. 1962 The clinical use of dreams. New York: Basic Books. (鑑幹八郎・一丸藤太郎・山本力 訳 1987 夢の臨床的利用 誠信書房)
- Delany, G. 1991 Breakthrough dreaming: How to tap the power of your 24-Hour mind. New York: Bantam Books.
- Freud, S. 1900 The interpretation of dreams. SE, 4-5.
- Freud, S. 1933 New introductory lectures on Psycho-Analysis. SE, 22, 7-182.
- Gendlin, E. G. 1986 Let your body interpret your dreams. Wilmette: Chiron Publications. (村山正治訳 1988 夢とフォーカシング 福村出版)
- Jung, C. G. 1929 The aims of psychotherapy. CW, 16, 36-52.
- Jung, C. G. 1931 The practical use of dream-analysis. CW, 16, 139-161.
- Jung, C. G. 1968 Analytical psychology: Its theory and practice. The Tavistock Lectures 1935. London: Routledge & Kegan Paul Ltd. (小川捷之訳 1967 分析心理学 みすず書房)
- Najima, J. 1996 Dream analysis of the Waterfall dream. Presented to the One-Week Seminar on the Interpersonal Approach to Psychoanalysis at the William Alanson White Institute of Psychiatry, Psychoanalysis and Psychology, July 19, New York city.
- 名島潤慈 1997 精神分析的な心理療法における夢分析の技法 精神分析研究, 41:1, 1-11.
- Sullivan, H. S. 1953 The interpersonal theory of psychiatry. New York: W. W. Norton & Company. (中井久夫・宮崎隆吉・高木敬三・鑑幹八郎訳 1990 精神医学は対人関係論である みすず書房)